

Title	企業成長戦略と会計・財務モデル - B社の事例研究を中心に -
Sub Title	
Author	丑山幸夫(Ushiyama, Yukio) 伏見多美雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1986
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1986年度経営学 第459号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001986-0459

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 丑山幸夫 主査 伏見多美雄
(株式会社ブリヂストン) 副査 柳原一夫
所属ゼミナール 伏見多美雄 研 矢作恒雄

企業成長戦略と会計・財務モデル — B社の事例研究を中心に —

タイヤ業界は、世界的な自動車生産の伸率鈍化とタイヤ寿命の長期化により需要が停滞し、将来も低成長が予想されている。加えて販売競争の激化、及び1985年以來の円高により収益は大幅に悪化している。従ってタイヤ業界に身を置くB社は競争の激化と収益低下に対処するため、既存事業の競争地位の強化や海外生産の推進、及び新規事業の育成が課題となっている。

本論文は、このような環境に置かれたB社の成長戦略をサポートする会計・財務モデルを構築し、様々な戦略を採用した場合企業の姿がどうなるかを主として財務面から予測しようとして試みている。シミュレーションモデルは、モデル化できる部分とできない部分があるが、モデル化できない部分を補うためモデル企業の環境分析、収益構造分析を行ない、これをもとに諸変数を設定しシミュレーションを行なった。また、様々な戦略代替案は複数の基準から評価されるが、当論文ではモデル企業の立場から企業目標を設定し、それら代替案の評価を行なっている。

論文の構成は、第1章で当研究の目的を明らかにしたあと、第2章でモデル企業の主力事業であるタイヤ事業の検討をもとに収益構造を考察する。第3章ではモデル企業の実態に即したモデルの検討を行ない、第4章でそのモデルを用いて様々な投資案のシミュレーションを行ない、結果を示す。最後に第5章でモデル企業の評価基準を設定し、目標ベクトル法によりそれらの結果の評価を行なっている。